

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

- ・「人権尊重の教育」を基盤とし、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる、人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（目指す児童像）

- ・思いやりのある子ども（思いやり星）
- ・よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
- ・健康でねばり強い子ども（健康星）
- ・働く喜びを知る子ども（働き星）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

子どもたちが夢を抱き、未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、愛情と使命感をもって、全力で教育にあたっていく。そして、思いやりがあり、生き生きと学ぶ児童を育成し、児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

楽しい学校とは、「児童にとって、わくわくして登校し、楽しい一日を過ごし、満足して下校できる学校」「教職員にとって、自分のもてる能力を十分に発揮できる、やりがいのある学校」「保護者にとって、安心して子どもを通わせ、積極的・主体的に協力できる学校」「地域にとって、信頼でき、積極的・主体的に協力できる開かれた学校」である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営の適正化

創立 151 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し、児童・地域の実情を踏まえ、学習指導要領に基づき、学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に、地域の教育力の導入を推進し、活気あふれる学校づくりに努める。

（2）教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに、人づくりの使命感に立ち、学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み、自身の資質向上を図り、和と協働を基盤に、教職員一人一人の特性やよさを生かし、児童・保護者と共に学校づくりに努める。

（3）学年・学級経営の充実

児童一人一人の個性等に配慮し、居がいのある学級づくりと、活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

（4）学習指導の充実

児童主体の分かる授業、楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

（5）豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に、様々な体験活動を通して、生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し、心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

（6）児童指導の充実

全教職員の認識を共有し、児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め、児童一人一人に寄り添い、気持ちを受け止める等、共感的理解に基づいた人間関係を確立し、日常のふれあいを通して、基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに、社会性の育成に努める。

（7）健康教育（体力向上、保健教育、食育、安全教育）の充実

児童が健康で安全な生活を送るために必要な資質・能力を高めていけるよう、体力向上、保健教育、食育、安全教育を計画的かつ体系的に推進し、学校の教育活動全体を通じた指導の充実を図る。

○（8）地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし、家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら、充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また、児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた、特色ある学校づくりに努める。

（9）地域とともに歩む学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践によ

り、学校と保護者・地域等の信頼関係を深め、地域とともに歩む学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

〔横川地域学校園教育ビジョン〕

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分・人・地域を大切にし、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2025」に示された基本理念である「とちぎに愛情と誇りをもち 未来を描き、ともに切り拓くことのできる 心豊かでたくましい人を育てます。」を目指し、「とちぎの子どもの基礎・基本」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画」(うつのみやいきいき学校プラン)を基に、その施策の柱である学習指導・児童指導の充実、未来を生き抜く力の育成、情報活用能力の育成、また、地域学校園(小中一貫教育)を生かした学校運営を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科道德、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

心豊かで思いやりがあり、生き生きと学ぶ子どもの育成に努める。

～ 認めて 褒めて 励まして ～

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科 道德」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) 健康教育

体力向上、保健教育、食育、安全教育の指導を充実させ、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童の育成を図る。

(4) 地域と共に歩む学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、校務分掌の平準化をはじめとした、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

○・主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実等)

【学習指導】

主体的に考え、学び合う児童の育成

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、上記のテーマで研究に取り組む。

【児童生徒指導】

学校や社会の決まりやマナーを守り、お互いのよさを認め合える児童の育成

- ・ 道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・ いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童を育成

- ・ 教科指導の充実や、学校行事、児童会活動等の機会を通した、運動に親しもうとする態度・能力の育成に努める。
- ・ 自己の健康状態について関心をもち、健康な生活を送るための基本的な生活習慣の育成を図る。
- ・ 食事の重要性や栄養バランス等、よりよい食生活についての指導を行う。
- ・ 危険を予測し、自分の命を自分で守り抜く行動力の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※□囲いは、本校の目指す児童像に深く関連する項目

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 学び星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。 ・ 児童の問題意識を高める授業の導入や授業展開の工夫 ・ 宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開 ・ 話し合い活動や対話的授業の工夫 ② 学校課題「主体的に、自分の考えや思いを表現し学び合う児童の育成」を実現するために、教職員の授業力向上の推進を図る。 ・ 相互に授業を見せ合い、児童の姿から学びを振り返る研修 ・ 校内研修サポート事業を活用し、外部指導者による指導助言を得ながら、教員同士が学び合う授業研究会の継続的实施 ③ 学業指導の充実を図る。 ・ 児童アンケートをもとに、実態に応じた支援を工夫 ・ 県の学業指導応援事業を活用し、年間を通した学業指導研修	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.2% 教職員の肯定的回答率 100% ・ 目標値を上回った。 ・ 「主体的に考え、学び合う児童の育成」という研究主題のもと、外部講師から指導・助言を受けたり校内一人一公開授業を継続して行ったりし、教員が授業力の向上に努めた。 【次年度の方針】 ・ 主体的・対話的で深い学びの向上に向け、授業を相互に見せ合う機会や研修を継続し、教員同士が学び合い高め合う授業研究会を実施する。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。 ・ 縦割り班活動・勤労の奉仕活動における異学年交流や体験活動の充実 ・ 思ちゃんコーナー、思ちゃんカードの積極的な活用	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.2% 保護者の肯定的回答率 91.4% ・ 児童は若干下回ったが、保護者は目標値を上回った。 ・ 年間を通して「思ちゃんコーナー」の充実に努めた。外部機関や異学年交流を通して思いやる心の育成を図った。

		② 毎日の振り返りや授業を通して、生命や人権を尊重する心、人を思いやる心などを育成する。 ・経験や体験活動等と関連を図り、自分ごととして捉え主体的に考える道徳科授業の展開 ・朝の会や帰りの会等における自他の違いやよさを認め合う場の工夫		・児童会主催のいじめゼロ集会で、友達を思いやる態度の育成に努めた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、思いやりの心をもった児童の育成に努める。 ・人権教育活動のさらなる活性化を図る。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 健康星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 自己のめあてや目標に向かってあきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます個に応じた指導や支援に努める。 ・自主的・主体的にそれぞれの学校行事やイベントに取り組めるようにするため、学校行事や児童会活動、各種検定等で立てた目標を振り返り時には、結果及び過程における自己の姿を振り返らせる。 ・学級活動や児童会活動などにおいて、児童主体の活動を計画・実現することで、取組への満足感や達成感を得られるよう支援する。 ② 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、児童が目標達成に向けて努力したことを称賛する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.2% ・目標値を若干下回った。感染症対策の制限が緩和してきたものの個に応じた指導や支援を今後も継続して行い、達成感を得ることで、粘り強く取り組む姿勢を育てる。 ・継続して、全校をあげて、学習や生活、清掃活動の頑張りを認める「めざせ四つ星マスター」の取組や、「読書の鉄人」の達成など、児童が意欲的に取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 ・学校行事の再開、児童会による新たなイベントの開催、各種検定の内容の工夫などを通して、児童が自主的・主体的に学校行事やイベントに取り組めるように、キャリアパスポートなどを活用し、めあてを立てさせて振り返りをする。 ・四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、互いに認め合う場を設ける。励ましの機会を設けるとともに、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 健康星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 児童が健康な生活を送ることができるよう、日常的に指導するとともに学級活動や教科体育における指導の充実を図る。 ・定期健康診断の結果や元気っ子生活習慣の結果を活用し、自分の体に関心をもつとともに、よりよい生活習慣についての意識を高める。 ・学校給食と各教科等の関連を図り、栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ、望ましい食習慣の形成を図る指導の充実。 ② 危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成するために、日常の安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.1% 教職員の肯定的回答率 96.6% ・児童、教職員ともに目標値を上回った。 ・教科体育や学級活動、日常における指導の充実により、児童の健康や安全についての意識が高まった。 ・食育に関するイベントや委員会活動の取組により、児童の食育に関する関心や望ましい食習慣についての意識が高まった。 ・日常の安全指導や避難訓練などにより、児童の危機意識が高まり、自他の命を守る行動力を育成することができた。 【次年度の方針】 ・児童の実態や課題について教職員で共通理解を図り、健康や安全に

				気を付けて生活できるよう指導に努める。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業や生活の振り返り活動を重視する。児童が発揮したよさや努力、協力するよさを自覚できるような自己評価や相互評価の場を設けて、自己存在感の高揚を図る。 ② 教室の思ちゃんカードや学級活動の掲示コーナーを積極的に活用し、児童相互に認め合う場を多く設ける。 ③ 教職員は気付いた児童のよさや姿を共有し合い、進んで声掛けを行うなど認めて褒めて励ます指導に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 86.9% 教職員の肯定的回答率 96.6% ・教職員の肯定的回答率は上回ったが、児童の肯定的回答率は目標値を下回った。 ・授業や生活の振り返り活動を重視し、自己評価や相互評価の場を設けることで、自己存在感の高揚を図った。 ・児童相互に認め合う場を設定することで、自尊感情や自己有用感の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・授業や生活の中で、一人一人が自分のよさや頑張りを自己評価したり互いに認め合う場を数多く設定したりする取組を継続する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 外国語活動や外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする活動を展開する。 ② 授業以外にも、ALTと英語でのやり取りをする機会を設け、児童が英語にふれる機会を多くする。 ③ 日常的に使えるフレーズを用いた掲示物を作ることで、英語に触れる機会を増やしていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.3% 教職員の肯定的回答率 89.7% ・教職員と児童の肯定的回答率が、どちらも目標値を下回った。 ・授業や生活の振り返り活動を重視し、児童相互に認め合う場を設定することで、自尊感情や自己有用感の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・授業や生活の中で、一人一人が自分のよさや頑張りを自己評価したり互いに認め合う場を数多く設定したりする取組を継続する。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 総合的な学習の時間や生活科、社会科における地域の学習において、児童が身近な地域や宇都宮市のことについて関心をもつような教材や授業展開の工夫を行う。 ② 給食の「宮っ子ランチ」や地産地消献立に関わる資料作成や放送などを通して、宇都宮の歴史や良さを紹介し、関心を高める。 ③ 図書館の宇都宮関連の常設コーナーの充実を図ったり、宇都宮に関連する本を読み聞かせたりする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.4% ・目標値をやや下回った。 【次年度の方針】 ・1・2年の生活科や、各学年道德の地域教材、3・4年の社会科、5・6年の総合的な学習の時間の中で、宇都宮のよさを意識できるように、学習活動を工夫する。 ・給食の「宮っ子ランチ」や地産地消献立に関わる資料作成や放送、給食だよりを通して、宇都宮の歴史やよさを紹介し、関心を高める。 ・宇都宮関連の充実を図り、子供たちが書籍を手に取りやすくレイアウトする。そして宇都宮の民話の読み聞かせを通して、宇都宮に対する関心を高められるようにする。さらに、宇都宮の民話の絵本の作成も引き続き行う。
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】	① 学校図書館の環境整備や利用喚起を図る。		【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.5% 保護者の肯定的回答率 88.7%

	⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	・随時蔵書を点検し、図書選定委員会を通じて、児童の希望や学習に必要な図書を計画的に補充する。 ・調べ学習等で必要な関連図書を選定したり、南図書館に協力依頼を行ったりして、各学年学級に配置するなど児童が身近に活用できるように工夫する。 ② 児童が一人一台端末に親しみ、適切に活用する能力を育成する。 ・授業の中で、一人一台端末等 ICT を活用し協働的な学習場面を工夫する。 ・ICT 支援員のサポートにより、児童の一人一台端末の有効活用の向上を図る。 ・児童の振り返りや学習のまとめなどを一人一台端末で行うなどして、保護者に児童の学びを知らせる工夫をする。	B	・児童の肯定率は上回り、保護者の肯定率は下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き国語や総合等の調べ学習等で必要な図書を利用したり、協同的な学習場面に一人一台端末や ICT を利用したりすることで、児童が図書や ICT 機器に親しめるようにする。 ・一人一台端末をはじめとする ICT 機器の活用方法や活用頻度を学年内で共有し合い、ICT 支援員のサポートや校内研修を利用し、児童や教員の活用技術の向上を図るようにする。 ・端末の持ち帰りにおける約束事を学校全体で共有し、引き続き児童に負担のないような運用に努める。 ・ホームページを通して、保護者に向けて学校での活用の様子を伝える。
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。 ・環境教育を教科横断的に捉え、関連した学習や学級活動において、持続可能な社会のためには、児童本人の行動が深く関わっていることに気づかせ、各学級で児童主体の取組を実践する。 ・環境委員会で児童が主体となる活動を設け、資源の節約や緑化など環境づくりを推進するとともに、全校に「持続可能な社会」について周知する場を設け、関心を高める。 ② 図書資料の充実を図り、SDGs について、主体的に学べる環境を整える。 ③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.8% 教職員の肯定的回答率 79.3% ・児童は目標値を上回ったが、教職員は目標値を下回った。 ・SGDs について掲示物を作成し、児童の関心を高められるようにした。 ・掲示物や関係教科での指導を通して、児童の SGD への意識を高められたと考えられる。 【次年度の方針】 ・日本に限らず、全世界で「持続可能な社会」を実現するためには一人一人の行動が深く関係することを学年の発達の段階に応じて各教科や学級活動等を通して、気づかせる機会を設ける。 ・委員会での活動を全体に周知する場をより多く設け、少しでも SGD について身近に感じられる機会を設ける。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や指導計画を作成・活用し、保護者・SC・関係機関と連携しながら、情報の共有や適切な支援を学校全体で行うようにする。 ② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、ユニバーサ	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% ・目標値を上回った。 ・配慮が必要な児童について、ケース会議を開くなどして方針を決め、学校全体で共通理解を図りながら、指導・支援を行った。また、必要に応じて、個別支援計画や指導計画などを作成し指導を行った。 ・どの児童にも、分かりやすい授業や教室環境づくりを目指して取り組んだ。

		ルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。		【次年度の方針】 ・引き続き、支援の必要な児童だけでなく、どの児童にも分かりやすい授業や教室づくりを学校全体で取り組んでいく。 ・今後も、支援が必要な児童については、必要に応じてケース会議を開くなどして、学校で情報を共有しながら児童の支援が協力してできるようにしていく。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 「いじめをしない、させない、許さない」心を培えるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。 ② いじめに関するアンケートや教育相談を定期的に行い、組織的な対応により早期発見、早期対応に心掛ける。 ③ 児童会を中心とした「いじめゼロ集会」の内容を工夫して行い、思いやりのある行動をする意識を高める。 ④ 保護者には、学年だよりや学校ホームページに、教育相談や集会の様子、道徳や学級活動等で学習したことなどを掲載し、学校の取組を発信していく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.0% 保護者の肯定的回答率 78.3% 地域住民の肯定的回答率 100% ・児童、地域住民は目標値を上回ったが、保護者は目標値を下回った。 ・児童会が中心となって「いじめゼロ集会」を実施し、いじめに対する意識を高められた。 ・定期アンケートの他にも、いつでも児童が相談しやすくするため、相談ポストを活用した。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、いじめ根絶に尽力する。 ・児童会主催のいじめゼロ集会や教育相談での取り組みを各種便り等で周知することで、理解を求めていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 「挨拶」「励まし」「称赞」等の言葉掛けを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を設定したりして、自分の居場所となるような温かい雰囲気学の学級経営に努める。 ② 教室の思ちゃんカードの活用など、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、教職員も認めて褒めて励ます指導に努める。 ③ 教育相談やQ-U 調査結果や普段の児童の様子から、不登校の兆候や傾向のある児童の早期発見、支援に関わる校内全体の情報共有を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.1% 保護者の肯定回答率 86.2% ・児童の回答は、目標を上回ったが、保護者の回答については下回った。 ・授業時間だけでなく、様々な活動の中で児童一人一人を見取り、「認め 褒め 励ます」を行った。 ・教育相談などで、子ども達の気持ちをよく聞き取り、一人一人の理解に努めた。 ・不登校傾向の児童については、サポートルームを活用して、担当教員が担任と連携しながら指導に当たった。 【次年度の方針】 ・児童が居がい感がもてる学級にできるよう経営計画をたて学級運営を行っていく。 ・心の小さな SOS を見逃さないようにし、不登校傾向の児童が見られた場合には、ケース会議を開き、方針を決め、保護者と連携しながら、対応できるようにする。 ・不登校傾向の児童がいた場合には、サポートルームを活用して安心できる居場所作りに努める。

3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実 3-(4) 多様な教育 的ニーズへの 対応の強化	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいいきとした 雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 日常的に児童の見取りを丁寧に 行い、児童の話をよく聞き、悩み や困り感に寄り添いながら励ます 指導に努める。 ② 職員間で定期的に児童の情報共 有を行い、必要な支援を組織的に 行う。 ③ 学校評価、行事アンケート等を 検証し、児童の思いを生かした学 校行事、児童会活動、学年活動等 を設定し実施する。 ④ 授業や生活の振り返り活動を重 視し、児童が発揮したよさや努力 したことが自覚できるような自己 評価や相互評価の場を設ける。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.9% 教職員の肯定的回答率 100.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・目標値を上回った。 ・学校行事や児童会活動など児童 が生き生きと活動し活躍できる場 面を設定した。 ・児童一人一人をよく見取り認め るような学級経営を行った。 ・授業の中で、児童が活動を振り返 り互いに認め合うような学級づく りを行った。 【次年度の方針】 ・児童の意見を取り入れた楽しい 学校行事や、児童会活動・学年活動 などを通して、認め合い助け合える 人間関係の醸成に努める。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童生徒にきめ細か な指導を行い、学力向上 を図っている。 学び星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業のねらいを明確にし、少人 数指導やTT、課題別学習など各学 年の実態や各単元に応じた指導法 の工夫を図り、個に応じた多様な 学習を展開する。 ② ICT機器を積極的に活用した り教材提示資料を工夫したりして 学習意欲を高める工夫をする。 ③ 朝の学習の時間などを活用し て、漢字・計算をはじめ、基礎 的・基本的な学習の定着を図る。 ④ 学習の様子を学校のホームペー ジに掲載し、児童の取組状況など を保護者に発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.9% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・児童、教職員ともに目標値を上回 った。 ・本年度の研究主題に向かって、授 業のねらいを明確にし、児童の意欲 や考えの深まりを意識して、少人数 やTTなど、個に応じた多様な実践 を展開することができた。 ・デジタル教科書や実物投影機、タ ブレットなど様々な ICT 機器を活 用し、児童の意欲や理解を高めるこ とができた。 ・朝の学習時の漢字や計算、読書を 中心とした学習により、学習の基礎 となる語彙力が身に付いてきてい る。 【次年度の方針】 ・引き続き、授業のねらいを明確に し、児童の意欲を高める工夫や、各 学年の実態や各単元に応じた指導 法の工夫を図り、個に応じた多様な 学習を展開する。 ・個に応じた言葉かけや、課題の提 示の仕方など、指導・支援を工夫す る。 ・朝の学習の時間を活用して、基礎 的・基本的な言語の力の定着を図 る。
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全 員がチームとなり、協力 して業務に取り組んで いる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 教員と専門性を有するスタッ フがそれぞれの能力や専門性を生か しながら、学校の諸課題や運営等 に相互に連携・協力しながら取り 組む。 ② 校内のOJTをさらに進め、チー ムとしての協働性を高め、若手教	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% ・目標値を上回り 100%だった。 ・それぞれの専門性を活かしながら 、教職員全体で協力し、課題に取 り組むことができた。 ・日頃から児童理解や学習指導な どの情報を共有し、学年の枠を超 えて連携し問題解決に取り組むこと

		員の育成をはじめ、教職員全体の資質向上を目指していく。		ができた。 【次年度の方針】 ・次年度は学年や業務の枠を超えた連携も重視し、学校の諸課題に適切に対応できるようにする。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 学級事務や児童指導等の共有化を図る時間を確保するため、学年の発達段階に応じて、宿題等でのデジタル機器の活用推進に努める。 ② 行事等の実施後や学期ごとの業務アンケートにおいて、課題や改善案を出し合い、業務の見直しや分散を実行していく。 ③ 出退勤時刻記録の継続し、教職員が自己の勤務時間を意識し月に一度の定時退勤日を確実に実施する。 ④ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、効果的で効率的な業務の改善に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 93.1% ・目標値を上回った。 ・出退勤時刻記録を継続し、勤務時間を意識した働き方につなげることができた。 ・教職員の困り感や意見を生かして環境整備や行事の実施方法等の改善を行い、業務の効率化につなげた。 ・日課表の見直しを行い、放課後業務に当たる時間を確保できた。 【次年度の方針】 ・さくら連絡網や校内電子掲示板を積極的に活用し、ペーパーレス化を更に推進し、事務に費やす時間の短縮化を図る。 ・業務の改善や学校行事の見直しを図る。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 「あいさつ運動」など<u>地域学校園の取組を各種便り、ホームページ等を通して、積極的に保護者や地域に周知する。</u> ② <u>小中学校での相互の授業参観や研究授業の公開、中学校からの乗り入れ授業等の積極的な交流を実施する。</u> ③ <u>各分科会や学校一人配置職員の分科会を通して、地域学校園内の相互支援体制を充実する。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.8% 教職員の肯定的回答率 93.1% ・児童及び教職員の肯定的回答は目標値を上回った。 ・新たに地域学校園の学校だよりを掲示するようにした。 ・学校事務・養護教諭・栄養士・児童指導担当・教務間で積極的な情報交換を行った。 【次年度の方針】 ・宮っ子チャレンジの際、より多くの児童が交流できるように事前計画を工夫する。 ・小中一貫の取組について、学年だよりや掲示物を通して、保護者、児童に発信する機会を増やしていく。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進				
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 保護者による学習支援ボランティアや読み聞かせ、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用する。</u> ③ <u>学校が地域や企業等の協力を得て、特色ある教育活動を行っていることについて、児童への周知を図る。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.8% 地域住民の肯定的回答率 100% ・児童、地域の目標値とも上回った。 ・低学年を中心に、保護者と地域住民との関わりが十分にもてた。 ・ホームページを活用し、積極的に発信することができた。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間を中心に、年計の見直しを行って、継続性や系統性のある教育活動を目指す。 ・引き続き、本校の取組を発信し、保護者や地域に対し、より一層の協力を呼び掛けていく。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 毎月の安全点検や定期的な教材・備品等の整理整頓により、危険箇所や不備について迅速な改善に努める。 ② 危機管理マニュアルの整備や地域防災会との連携協力を行うとともに、校内では避難訓練や引渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。校内で行った訓練などについてはホームページに掲載し、本校での活動を周知していく。 ③ 駐車場利用や周辺道路への駐車禁止等に関して、メール配信や各種たよりなどで保護者に周知し、理解や協力を得る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 78.5% 地域住民の肯定的回答率 100% ・地域住民は目標値を上回ったが、保護者の目標値は下回った。 ・安全点検を全教職員が行い、可能な限り修理修繕に努めた。 ・不測の事態へ備えるために避難訓練や引渡し訓練等を行い、危機管理能力を高めた。 ・地域協議会では避難計画や危機管理マニュアルの周知を行った。 【次年度の方針】 ・引き続き今年度の取組を行い、安全に配慮した環境づくりに努めるとともにホームページなどで、学校の安全計画や活動を周知していく。 ・駐車場の自由利用や朝の送迎については、工事関係で制約も多く、保護者の要望に応えることは難しい。周辺道路への駐車禁止等も併せて、理解を促し、さらなる協力をお願いしていく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一端末等 ICT 機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。 ② 情報教育主任を中心にした校内情報教育研修や活用実践の共有化により教員の ICT 活用能力の向上を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・教職員の肯定的回答は 100%で目標値を上回った。 ・一人一台端末を積極的に取り入れ、調べ学習や授業の中の様々な場面で活用したり、校内研修を実施したりすることができた。 【次年度の方針】 ・ICT 機器を活用した学習形態の工夫や授業改善により、分かりやすい授業展開を図る。 ・新しいアプリの使い方や実践事例を共有する校内研修の機会を設ける。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① <u>家庭や地域団体と連携しながら、あいさつの日常化を図る。</u> ・学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。 ・児童会主体のあいさつ運動継続 ・教職員自ら明るく元気なあいさつに心掛ける ・地域協議会作成「挨拶タスキ」の有効活用 ② <u>横川地域学校園による「あいさつ運動」を実施する。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.7% 教職員の肯定的回答率 93.1% ・児童、教職員共に目標値を上回った。 ・代表委員会児童が中心となってあいさつ運動を実施し、意識の高揚を図った。 ・日常的に教職員から児童にあいさつをすることで、あいさつのよさを伝えてきた。 ・小中連携により、中学生とともに挨拶運動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、時と場に応じたあいさつができるよう指導していく。

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員で指導内容を明確に把握し、基本的な行動様式の指導を徹底していくことで、習慣化を図る。 ・生活目標（短期的な具体目標）を設定し、時間を守ること、言葉遣いや廊下歩行について指導の重点化を図る。 ・児童会を中心とし、児童主体の活動を行うことで、規範意識の醸成を図る。 ・道徳科の授業や学級活動を中心として、児童の規範意識、思いやりの心の育成に努める。 ② 横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.7% 教職員の肯定的回答率 93.1% 地域住民の肯定的回答率 100% ・児童、教職員、地域住民共に目標値を上回った。 ・職員の共通理解のもと、ルールを守って学校生活を送ることができるよう指導してきた。 ・代表委員会で生活目標を作成し、学級に掲示することで、意識の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、学校内外でルールやマナーを守れる児童の育成に努める。
	B3 児童は、児童主体の活動やボランティア精神の涵養を図る勤労体験活動に主体的に取り組んでいる。 働き星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 縦割り班清掃、クリーン活動と勤労タイムを一本化して児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。 ② 米作り体験や教材園などの栽培活動を計画的・継続的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.4% 教職員の肯定的回答率 100% ・児童・教職員ともに目標値を上回った。 ・米づくり体験や教材園などの栽培活動も十分活動できた。 【次年度の方針】 ・クリーン活動と勤労タイムを一本化して児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

重点目標「思いやりの心の育成」に関する項目 A2「児童は思いやりの心をもっている」の教職員、保護者、地域住民における肯定的回答は 90%を超えており、市と同程度または上回っている。児童の肯定的回答は 89.2%であり、昨年度の本校の結果よりは上昇したものの、市の 91.2%を下回った。引き続き、道徳科授業の実施や人権教育活動の更なる活性化を図り、児童一人一人の思いやりの心の育成に尽力する。

重点目標「学力向上」に関する項目 A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図っている」の児童の肯定的回答は 95.9%、教職員は 100%であり、教職員が日々の教材研究を熱心に行っていることが児童自身の学力向上に対する自覚へ反映されており、良好な結果となった。また、A1「児童は他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」の肯定的回答は児童が 91.2%、教職員 100%であった。今年度の研究主題「主体的に考え、学び合う児童の育成」のもと、教員が相互に授業を見せ合って協議したり年間を通して研修を継続して行ったりすることを通して、教員同士が学び合い高め合う風土を醸成してきたことが良好な結果に結びついたと考える。今後も、児童の実態を捉え、どのような力を育てることに注力するのかについて教職員で共有し、授業改善を行いながら児童の確かな学力の向上につなげてきたい。

重点目標「健康教育」に関する項目 A4「児童は健康や安全に気を付けて生活している」については、児童、教職員、地域住民の肯定的回答は、本校の昨年度の結果を上回るとともに市の平均も上回っている。鉄棒や縄跳び、幅跳び等の指導法を教職員が学び、授業に反映する、食育週間や委員会活動の実施内容の工夫、栄養士や養護教諭が授業へ参画などの取組が良好な結果に結びついたと考える。保護者の肯定的回答が昨年度の結果及び市の平均を下回っているので、情報提供を行うなど保護者への啓発に力を入れていきたい。

重点目標「地域と共に歩む学校づくり」に関する項目 A17「学校は「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」の児童、教職員、地域住民の肯定的回答は昨年度を上回った。特に教職員、地域住民は大幅に上回った。中学校と連携し

たあいさつ運動や乗り入れ授業の実施、事務、養護教諭、栄養士、児童指導担当、教務間での積極的な情報交換を行ってきた。保護者の肯定的回答が、昨年度の結果や市の平均よりも下回っているのに、ホームページや各種便りを通して引き続き発信していく。A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」の肯定的回答は、市と同程度もしくは上回っている。全PTA協力で実施している安全パトロール当番、地域住民の協力によるコメ農業体験、「横央祭」での餅つき・販売、読み聞かせ会の実施、地域の老人会の協力による昔遊びの実施、総合や社会科における市・県の講師による授業等、地域や企業との連携で実施している教育活動が充実していた。横央小の児童を地域と学校で育てる体制ができています。

学校運営については、A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の教職員の肯定的回答は、昨年度（66.7%）を大幅に上回り、93.1%となり市の86.6%も上回った。教職員の困り感や意見を生かして環境整備や行事の実施方法等の改善を行い、業務の効率化につなげることができた。また、出退勤時刻の記録を継続し、自己の勤務時間を意識した働き方につなげることができた。A15「学校に関わる職員全員がチームとなり協力して業務に取り組んでいる」については教職員の肯定的回答が100%であった。日頃から児童理解や学習指導などの情報を教職員同士が共有し、学年の枠を超えて連携し問題解決に取り組んだ。今後も一人一人の専門性や得意分野を生かし、本校に関わる教職員全員がチームとなり業務に取り組んでいけるよう、チーム力の向上に努めていく。

7 学校関係者評価

- ・授業中は、どの学年も教師の話を真剣に聞いており、落ち着いていた。今後も継続できるとよい。
- ・授業で積極的にパソコンを活用していた。子供達はブライントッチで入力しており、使用することになっていく。
- ・習熟度学習では子供達の力に応じて工夫した指導が行われていた。発達の段階に応じた指導の仕方が工夫されていた。
- ・全体的に保護者の評価が下がっているのが残念である。活動に問題があるというよりは、学校との関わりや学校への興味関心が薄れているように思う。目を向けてもらえるような取組が必要である。
- ・保護者が学校での子供達の様子を見る機会が減っていいところがあるのではないかと感じる。
- ・全体的にとっても高い評価である。教職員は人間相手の仕事なので忙しいと思うが、A16の肯定的回答が昨年度よりも高くなりよいことである。
- ・現場の児童の評価が高いことが実情を最も表している。今後も保護者、地域が学校行事等に参加しやすい環境づくりに取り組むとよいと思う。
- ・年々子供達がおとなしくなっているように思う。
- ・子供達はいつでも会えばあいさつをしている。昨年と比較して児童の肯定的回答が向上しているのはとてもよいことである。
- ・学校からの配付物が紙ではなくデータになったことで、保護者が情報を目に留めにくくなっているのかもしれない。PTA側からも学校のがんばりは伝えていくようにする。
- ・今後も子供達の笑顔のために、魅力協及び地域としてできることを実施していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ほとんどの項目において、児童、教職員、地域の肯定的回答が90%を超えている、もしくは90%に近い数値となっており、本校の様々な教育活動に対して高く評価していることが伺える。
- ・保護者の評価が全体的に低くなっている。このことについては、第3回魅力協でも話題にし、対策について話し合った。「PTA執行部を中心に学校との連携を一層深め、学校の取組を保護者全体に広めていくこと」、「保護者同士のつながりもうすくなっているため、PTAや育成会での保護者同士のコミュニケーションを重視していくこと」、「学校からの発信がデータになったため、目に留まりにくくなったことが考えられるので、HPにも同内容を発信していることなどを年度当初に保護者に伝えること」、「学校支援ボランティアへの参加により学校理解を向上させること」などの意見が出された。PTAや地域の協力を得ながら、学校の取組を実感してもらえるよう発信、共有の仕方を工夫していきたい。
- ・日常的に地域学校園各校の取組の実情を把握し、情報の共有を図っている。地域活動の中には、学校園の児童生徒を対象にしたものがあり、地域の方々が地域の子供達のために行っている。今後も児童への参加を促し、児童の郷土への理解や地域への愛着心の涵養につなげていく。
- ・学校関係者評価に「児童がおとなしくなっているように思う」という意見があった。児童の主体性を育む必要性を感じている教職員も多い。地域学校園の教育ビジョンに「主体的に行動できる子供の育成を目指す」とある。地域学校園で、子供達の実態把握を行い、育てたい子供像を共有しながら、本校として大切にしている指導について研究を進めていきたい。
- ・地域の方に授業を参観していただき、児童が落ち着いて授業に臨んでいること、教員が児童の発達の段階や一人一人の理解度に応じた指導に熱心に取り組んでいることを評価していただいた。今後も学力の向上が図れるよう、よくわかる授業、学びある授業、できた喜びと向上していく喜びが自覚できる授業を目指して教員の指導力向上に努めていく。
- ・児童の高い評価が今後も維持できるよう、児童にとって「わくわくして登校し、楽しい1日を過ごし、満足して下校できる学校」を目指し、学習指導・児童指導・健康に関する取組を充実させていく。